

交流を通じてハンセン病を学ぶ とんぼの里から広がる活動の輪



とんぼの里で 清掃活動

6月17日、合志中3年生が菊池恵楓園に集まりました。
園内にある「とんぼの里」の清掃をするためです。

菊池恵楓園には、とんぼが育つための水路があります。そこは「とんぼの里」と呼ばれています。20年ほど前に設けられたこの場所は、憩いの場として定着し、散歩する市民の姿が多く見られます。
しかし、最近では里につながる池の水量を減らしており、とんぼが育つ水路が途絶えていました。



普段とんぼの里の手入れをしている入江さん
「中学生がお手伝いをしてくれてとてもありがたいです」



とんぼの里の管理は入所者の高齢化により年々難しくなっています。そこで、草取りなどの清掃と合わせ、水路を復活させるため生徒たちが一生懸命作業に取り組みました。

普段とんぼの里の手入れをしている入所者の入江章子さんも訪れ、作業の様子を見守りました。

そして、この日集まったのは合志中の生徒だけではありません。話を聞いた山鹿市の菊鹿中の生徒が自分たちもお手伝いをしたいと名乗りを上げました。

2校の生徒が協力し、作業は終了。とんぼが無事育つ環境ができたがりました。



社会交流会館を見学

作業に参加した生徒は「大変だったけど、楽しかった!」と口々に話していました。

作業の後は、全員で園内にある社会交流会館を見学。ハンセン病の歴史を学びました。